

- ポルテック オリゾン (Pollutec Horizons2009) の概要

ポルテック オリゾンは、フランスで開催される欧州最大級の環境・エネルギーの国際見本市であり、毎年パリとリヨンで交互に開催されているものです。2009年は、パリ近郊にあるパリ ノール ヴィルパント (Paris Nord Villepinte) 展示場を会場に2009年12月1日～4日の期間で開催されました。会場面積は43,860㎡で、出展者数は1,412団体、そのうちの30%が外国からの出展者となり、その数は36カ国を数えます。

期間中、41,758名の環境分野に従事している関係者の来場があり、出展者を除く来場者数は32,978名(2007年より8.3%減)、そのうち16.7%が外国からの来場者です。



会場入り口の様子
(Pollutec Horizons2009 公式ホームページから転記)

- 会場の様子

ポルテック オリゾンの中心テーマは、「公害の処理と予防」ですが、「資源の最適化と有効利用」、「エネルギーと気候変動」、「リスクの予防と管理」、「持続可能な開発の実現」といった、環境をめぐる新しい課題への対応も進めています。

今回のポルテック オリゾンでは、最も有望なバイオテクノロジー分野の環境応用技術と、超臨界液体及び膜関係の技術等に重点が置かれました。報告者が受けた印象では、廃棄物の有効利用に向けた民間企業等の出展者が多いように思われました。また、環境技術者の情報交換または新たな事業拡大を目指した関係づくりを目的とした見本市であるため、来場者側も高度な専門技術の知識を持ちあわせている必要があると感じました。

また、ポルテック オリゾンでは毎年特定の外国がクローズアップされますが、今年はカナダが取り上げられ、水処理、土壌汚染除去法、エネルギー効率のための革新的技術等が広く紹介されました。

日本からは、例年通り NEDO (新エネルギー・産業技術総合開発機構) が出展したほか、NEDO のブースの隣には JETRO (日本貿易振興機構) によるジャパンパビリオンが形成されており、とり

わけ日本の民間企業が取り組む先導的な技術紹介を行っていました。



左が JETRO によるジャパンパビリオンのブース、右が NEDO のブース

ジャパンパビリオンのブース内では大阪市もブースを出展しており、大阪市の広報を行うとともに大阪市の企業が生み出したアンダーホールナット¹という先進的なナットを紹介し、大阪市の誇る中小企業の技術や製品を広く紹介することで中小企業の販路拡大に取り組んでいました。また大阪市の協力を得てフランス企業との商談会を開催するなど、地元企業の更なる市場拡大に向け積極的なアプローチをおこなっていました。



大阪市のブースの様子

¹ゴムと樹脂の中間材「熱可塑性エラストマー」の混合材を使用した蝶タイプのナット。ゴム特有の「戻り」の応力を活用して弛み止めを実現したもので、ナット内側の「ねじ」はない。樹脂材のもとに戻ろうとする応力（＝復元力）が通常より強い為、雄ねじとナットの密着性が強く、緩み止め効果を得られるほか、防水性、空気の洩れ、防塵性に優れる。樹脂材特有の耐食性、絶縁効果、軽量も実現。環境にも優れている。また雄ねじを外した際、それまで浮き上がっていたナット内部のねじ跡は素材の復元力によって、平らの状態に戻るため、リサイクルも可能。（参照：<http://www.nejinews.co.jp>）

- 所感

ポルテック オリゾンは、環境及びエネルギーをテーマとしたかなり専門性の高い見本市です。そのためこの分野の日本企業にとっても技術交流の相手先を捜したり、新たな市場開拓に向けてのPRを行うには絶好の機会となるものと思われます。また、専門的な環境技術の情報を得るには最も適した機会です。事前にアポイントメントを得ることなく、これだけ多くの技術者と情報交換できることは滅多にない機会であることから、ポルテック オリゾンは日本の地方自治体の技術者にとっても有益な情報が得られる可能性が大きく、ポルテック オリゾンは視察調査の候補に値するのではないかと感じました。

2009年12月3日

クリアパリ事務所

所長補佐 高橋円花（岩手県派遣）